

男子の本懐、騎馬戦



市川中学校体育大会 1966、7 年頃
「市川学園五十年の歩み」昭和 62

この写真は中学の体育大会での組体操。近ごろじゃピラミッドとか騎馬戦みたいな種目ないんだけど？ 体がヤワになったのかネ、今の方がずっといい物食べてるって思うんだけど。

ぼくが生徒だった頃からこの写真のもう少しあとくらいまでは組体操、棒倒し、騎馬戦ってのは不可欠、必須の種目。特に騎馬戦はこのために学校に来てんだみたいな大盛り上がり。殴る蹴る引っ掻く噛みつくは禁止手だったけど、号砲鳴ったら壮絶、男の戦場、竜虎の果し合い。

予行の日に図書委員の生徒が図書館の事務室に来て「おなかか」とばされた、痛い〜」とべそかいてた。予行でそうだからネ。

体が運動に向かない生徒は体育の実技には「見学」ということで出席扱い。本人は体動かしたかったのか見学すらいけない思いをしていたのかぼくは考えもしなかった。当時はクラスメートも学校も特別に配慮するとかってことなかったように思うヨ。

高校生の時、松葉ぐえ 2 本のクラスメートが居て、教室が 3 階だったけど、手すり

沿いに階段器用に上り下りしてた。連れになったヤツも手をかすわけではなく話しながら一緒に階段昇り降りしてた。それによかったのかもしれないナ。

同窓会に、親のあと継いで社長になってた彼が参加した時も、幹事の一人が入りの階段で待つ係りしたけど、生徒の時と同じで、スピード合わせて気楽な顔で何か話しながら一緒に上るだけ。二人にとつては普通のことなんだろうネ

そうそう、運動会の職員競走で片足不自由の S 先生が遅れながら走ってた。千葉の聲唾学校から聴覚ゼロという兄弟が受験して合格した。担任してた H 先生に誘われて兄弟二人を含めたクラス有志のキャンプについていったことがあってサ、クラスのみんなも、一緒にピンポンやったり野球したり食事つくったりと見た目には特別扱いの様子なかった。授業の音楽鑑賞とか英会話とかはどういういたんだろ。

男の子対象に作られた学校で、先生も男だけ。ぼくが入学した時は、女の人は事務室におばさんが二人と図書館に一人だけ。勤めるようになって女先生が二人、三人と入ってきてても、トイレとか着替えとか配慮全くなし。

保護者会や「学園祭」についていた文化祭の日に、事務室、職員室近くのトイレを女性専用にと配慮するようになってたのは女の先生や職員が増えてきてからのことだ。そういう場所のそうじに、担当の女性の A 先生がまず点検して OK だし、それから生徒、男の子がそうじに入るという手順が必要だなんて、ぼくはその時 A 先生におそわって初めて知った。

風の便り X VII

2021 (令和 3) / 2 / 1.
船橋市浜町 辻 秀幸

オンライン飲み会って？

新型コロナウィルスで俄然注目されたネ、リモートが。うまくいかないとか友達と会いたいとか生徒から不満が出てるらしいけど、それって今特有の話じゃないか？ リモート教育そのものは教育の手段の一つのデだと思っけどネ。今の子はスマホやテレビゲームに慣れてるから、画面越しの授業ってもう平気になってるんじゃないか。友達とワイワイやれないってのはコロナのせい。

5 年生の時に、授業中、隣の女の子と話を夢中になって身振り手振りしたらしくて、「つじつ、なに独り芝居してンダ！」ってしかられて、教室中大笑いになったことがあってネ。5 分とじっと聞いて居られないう子がいるし、そもそも大勢はダメなう子もいる。そんな子にはリモートは選択肢の一つじゃないか。勉強そのものが向いてない子もいるけど、夢中になれることとか好きなことやればいいんじゃないか。アイシンジュエインとかファープルとかさかなクンとかって学校不適応だったんじゃないか。学校教育を前提としてる世の中に出て暮らすとそれとそれなりにえらく大変だと思うけど。

ぼくは大学の通信教育受けたけど、そのころは質問しようと思っても、手紙でも電話でも手紙は考えられただろうけど、そもそも質疑応答なんて想定外だったんじゃないか。日本史のおよそ授業

末節だと思っでパスしてたことが試験に出て、がっくりしてやる気喪失。思い直して再挑戦するまでけっこう時間かかったやうなことがあった。一人でやるってそういうことがあるネ。教室でじっとしてれば単位取れるってのはある意味らくだと思っヨ。

ところで、オンラインで飲み会やる人たちがいるらしいけど、気持ちが悪う一つわからん。つつつきこしたりつかつかのほどこ近くで笑いあったり、待ち合わせの時のワクワク感とか、別れて一人電車の窓から街の灯見た時のなんかさみしい気持ちとか、そういうのが飲み会っていうんじゃないの？ 画面越しで飲み会って楽しいのかネ。

機械使うのって面白い



「第 2 相澤博幸」英語の授業
要覧「市川学園要覧」19766.

ばけ学の T 先生は、教師が手元で実験して見せる場面でも、後ろの生徒は見えにくいだろう、いい方法は無いだろうかって色々工夫した先生でネ、その頃授業に機械持ち込ませるのがはやって、ディーン・グ・マシントかいてたけど、この写真は T 先生が具体化したもの。その頃英語科で LL (エルエル) つまりランゲージ・ラ

ポラトリー作の話が出て、その後押しにもなるかなって、図書館部長でもあったT先生が作ったもの。

N先生がこのティーチング・マシンで英語の授業してるところ。あらかじめ質問用意として、イエスノーとか3択とか5択とかで生徒が手元の端末で答えると、教卓の機械に全員の結果が出てネ、それを先生の右手に写ってるプリンターで紙に残せるつちゅう仕掛け。

生徒の机の端末が不具合を起こすこと多くて難渋したもんだけど、N先生は機械使うのって面白いって、よく使ってた。

ついでに隣りの第1視聴覚室の写真。M先生がNHKの教育番組録画したのを見せようとするところだったかす。ここには見たり聞いたりする器材を集めた。設計の時に、スクリーンの位置をもっと高くとか黒板は軽く動かせるようにとか注文したけど、結果としてどちらも失敗。

教科によっては、お互いの授業を見学したり、先生対象に研究発表したりして。地学のA先生の、戦時中の飛行機や船による気象観測にまつわる研究発表見たけど面白かった。ぼく自身も卒業生が教育実習に来た時、命じられて図書館



「第1 視聴覚室」 M先生の化学の授業。
要覧「市川学園図書館」19766。

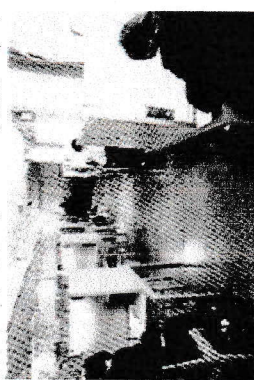
にある視聴覚関係の器材・資料の紹介を、実演中心でやった。実習生は教科書をこなすの精一杯で、スライドや8mm教材やトランスベアレンシー(トラペン)を利用しとて考えるとここまで余裕は無い様子だった。

(ランゲージラボラトリー、トランスベアレンシー：共に広辞苑に掲載。ここでの説明省略。ごめんなさい。)

一人が群れるか

第三教育(1. 親からの教育。2. 学校での教育。そして3. 自分自分に行う、つまり自主的、自発的教育)を身に付けることに力を入れた古賀先生はその場所として図書館を重視した。

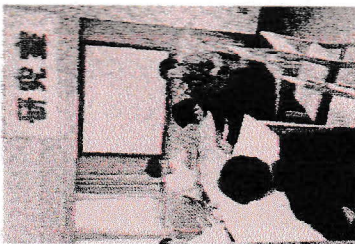
その図書館をさらに充実拡充しようという新築計画の中心になったT先生のアイ



「キャレール」ある日の放課後の様子。
要覧「市川学園図書館」19766。

デアで、閲覧室の書架の上にてできるすき間に廊下を作り、そこに個人机を置いた。先生はキャレールと名付けた。個人机といっても向い合せの二人机ですが、ついたてを置いて一人で勉強する雰囲気としたわけ。結構好評でした。照明が目に入らないようにと注文しましたけど、予算や入手容易な商品などの都合で写真のようにになりました。ついでに止める金具が簡単に、すぐ使立たずになったり、机

や壁に落書きが増えて閉口しました。一人静かに過ごす一方で、討論・議論の場も必要だと、キャレールの両端を小部屋にしまして、研究室と名付けました。二つのうちの一つを先生専用「職員研究室」としました。両方ともよく利用されました。防音ではなかったのでも議論や大笑い



「研究室」
図書館委員会のある
休の会。部室は
中高生一棟
要覧「市川学園
図書館」19766。

は避けてネ、と声かけののちよと気の毒でした。それと床材のせいかわ椅子や机を動かすとキーキー音がするのも気になりました。

キャレールつてそもそもどういう施設のことなのか名前なのか、T先生に聞きましたけど忘れ。

傘の星空、カバンの地震

マシンの向かい側の家に松が植えられていてネ、門に被さるように枝が伸びててサ、見越しの松だ。マツカサが見ると届くところに出来るンダ。マツカサ見ると教卓の上ってタネを落としてクルクルルッ回る様子を生徒に見せたこと思い出。

思うんだけどタネがつぼきつて飛んでみたくって考えたのかネ。それともまたまつばさが出来て、それが子孫にたまた



クロマツのマツカサ(球果。左)。熱してカサ(種)が開くと翼を持つ種子(右)が風にのって飛ぶ。カサは通ると閉じる。

ま続いてるだけなのかネエ。

新米だったけど逆にその分がんばったんですヨ。ぼくは。ほかにもネ、天文のどろじゃ黒いコーモリ傘の内側にしるしつけて回転させて星や星座の動きの話しをした。卒業してからO君が覚えてますって話してくれたから、面白かった生徒もいたんだネ。

保護者会の日、午前中早く来た父兄は授業を見ることができてネ、ぼくの自分のクラスの理科の時間にも大勢お母さんが居た。その時は地震のとこで、大きくゆっくり揺れるのと小刻みに揺れるのとの違いの説明に、一番前の生徒の肩掛けカバン使ってネ、やっぱ教卓に乗ってぶら下げて揺らしたわけヨ。ゆっくり左右にふったり、小刻みに素早くふったりするノ。カバンしやなくても重い物少し長めにぶら下げてやってごらんよ。地震のゆれの違いの一つってのが分かるヨ。生徒はぼくの動きをヤンヤおもしろがってたけど、お母さんたちの方は、へーとかなーるほどってな顔して頷いてた。

いろんなことあった。先生不適格で自覚するのはもうしばらくあとになるす。

気になる歌手

若き日によく目にした女性歌手の何人かを思い出してみよう。

藤圭子。多分十代だろう、デビュー当時の藤圭子を見て、すごみのある美人だと感じた。暗い唄で、黒い衣裝で、歌う以外ほとんど口を開かないという、暗いイメージだった。ところがこれはプロデューサー側の作戦で、素顔はいったって快活茶目っ気のあるおしゃべりな女の子だったという。宇多田ヒカルという歌手のお母さんです。

ちあきなおみ。歌唱力抜群。愛する人が死んだのを機に姿を消した。そういうことよりも私には標準語が生まれる事情を描いた井上ひさしのドラマ『タタタデレ』さん役をもう一度見たいひと。

地方出身の人たちの様々な土地言葉の中で、のんびりおっとり少し足りないのかという演技がはまっていって、まことに愉快であった。

山口百恵。(だと記憶する)は絶品だ。というので一度聞いてみたい。

山口百恵。大歌手というのか、とにかく人気抜群であった。私には再放映で見た「伊豆の踊子」の踊り子役が記憶に残る。

うまいというより素麗気のあると言えはいいのだろうか、そういう女優に感じられた。三人娘のひとりとして売り出されたが、こういう世界に向いてない、苦手な性格に見えた。

「伊豆の踊子」で共演した三浦友和と結婚して妻として母として幸せのようなのはなによりです。



藤圭子
2019/12/31 テレビ
東京「大晦日恒例
年忘れにっほんの
歌」録画面から



ちあきなおみ
2020/1/12 BS テレ
ビ東京「あの年の歌
SP / "昭和〜平成を
彩った名曲ランキン
グ100"、録画面から



山口百恵
2020/1/12 BS テレ
ビ東京「あの年の歌
SP / "昭和〜平成
を彩った名曲ラン
キング100"、録
画面から



浅田美代子
「隣のミヨちゃん」と呼ばれるのがびったり
の、素の本人もそうらしい女優。歌でも売りに
そうとしたらしいが、そちらの方の才能はさう
ばり、だったようだ。NHKで持ち歌を披露する
のに必要なオーディションでOKがなかなか出
なかったという話は有名。
TBS「寺内貫太郎一家」の一場面。中央樹木希
林(悠木千帆)、石野正幸。第1回(2007/3/13、
再放送)録画面から

浜町から 風の便り XⅧ

2021(令和3)2.15.
船橋市浜町 は 秀幸

カッコーイー!

BBCはジョーン・コネリーが90歳で役したと伝えた。スパイ映画「007」シリーズの主役ボンドの初代俳優。

この映画は面白かった。今も時々再放送やビデオを見るが、荒唐無稽な話と承知しつつも、そんなアホなという場面や仕掛けだらけ。これが面白かったのだ。ボンドの行く先々にサポーター役がうじゃうじゃ居たに違いない。でなければあも都合よくドラマえんもの竹コブターみたいなやハングライダーやらが逃げ道にあるわけがない。なんぞとヤボなことは置いて、ジョーン・コネリーはかっこよかった。老いてひげ面で出演するようになるとますますかっこよくなつた。特に気に入ったのは「レッドオクトバーを追え」で腹心の部下に亡命の決意を話す食事の場面。

他人様の食べる口元は見たくない。新京城の松戸行きに乗った時、目の前の席でおやじさんが菓子パンを食べ始めている。一所懸命に口をもぐもぐさせている。とてもじやないが見るに堪える景色ではない。

ジョーン・コネリーの食べる場面はかっこよく見られた。こんなふうにもぐもぐできたらいいなと思う。

映画がテレビに乗っ取られる前、おそろく燃え尽きる前のロウソクのようにならなかつた時代だったろうか。チャンバラと西部劇に心を奪われた。映画館を出てくるときは眼狂四郎であった。ワイアット・アープであった。

その頃の時代劇はチャンチャンバラバラと舞うように刀を振り廻す。その流れの最後の一人が高橋英樹。市川学圃の4年後輩。ダイコンと評されていたが、今や大御所としてテレビのパラエティエに出ていた。

私がフアンになったカッコーイー俳優は三船敏郎。私があそこがれる、強くてやさしい男のイメージに合ったのだらう。あるいは逆に、三船からそういう強くて心根のやさしい男のイメージにあこがれたのかもしれない。それも黒沢明監督と組んだ三船敏郎に限るようだ。後に、テレビドラマで三船をみることもあったが、別人であった。つまらなかった。

三船と黒沢の組み合わせで最初に見たのは「用心棒」(1961昭和36 東宝)だった。この映画で見たチャンバ



ジョーン・コネリー。映画「レッドオクトバーを追え」(BRISHA O'KILLER)の亡命を伝えるシーン テレビ放映画面から



映画「第30年」1962 黒澤明監督 加藤敏郎。右は加藤敏郎の代役 佐々木 康也

ラはそれまでとはまるで違っていた。リアル（多分）ではあるがむごさや汚さは感じなかった。ニヤリクスリとする場面もあった、全体として明るい印象が残った。

黒澤の幾つかの作品を、それぞれ別の監督で再映画化したのを見つけた。同じ脚本によるということだが、まるで別物。それは当然だが、どうしても比べてしまう。

リメイク版は平面に描かれた絵で、きれいだはあるが奥行きがない。オリジナル版は立体で陰影がある。と例えた方がいいのだろうか。脚本、役者、撮影が実に見事。よく練られじっくりと撮影されているということかな。

最近ではドラマを観賞する気力がなくなっている。見た瞬間に画面も筋も明快でないといけない。

黒澤が描いたのはスーパーマンみたいな強いヒーローであった。後の山田洋次らは目立たない侍を主人公に据えた。（「隠し剣鬼の爪」「武士の一分」「蟬しぐれ」など）

気になる女優

カッコーイ男に対して、女性には小股の切れ上がったと言葉がある。

ジョン・ウェインの腹が出始めた頃の映画「ロマンチズム」で悪党集団のボスの娘役アイナ・バリンが顔も体もシャキッと見えて記憶に残った。子どものころから、なよなよしているより、男装の麗人という方にひかれる。

最近、といってももう大分時間がたつが、新感覚の時代劇をテレビで何本が見た。

三船敏郎が演じためつぼう強いヒーローではなく、旧来の武士社会と広がり始めた西洋の思想とに挟まれた下級武士の葛藤を描いたとでもいうところだろう。そういう男が思わぬ活躍をして、観客は喝采する。やっぱり強いヒーローではあるわけだ。

どれも主人公の役者はものたりなかったが、相手役の女優はよかった。

「隠し剣鬼の爪」（藤沢周平原作・山田洋次監督）で松たか子を見て初めて見た。この物語のラストで主人公に、一緒に江戸に行こう、とプロポーズされてうなずくシーンに私は涙した。気持ちよく泣きたい気分とき、私はこの映画を見る。侍と家事手伝いという主従の、それまでのいさぎさっ・やりとりが伏線となっているこの場面が立く。

もう一本、「蟬しぐれ」（藤沢周平原作・黒土三男監督）の木村佳乃。こちらは「お家騒動」がらみのお話。主人公の隣の家の幼なじみの村娘「ふく」が、お殿様の目に留まって側妻となるが、男子誕生となって本妻側のお約束の

お家騒動となる。本妻、側妻どちらがどうのということとは離れて、隣のお兄さんは幼なじみの娘「おふく様」を命懸けて守る。騒動おさまった後、お殿様が亡くなり、しきたり通り尼となっておふく様は駕籠でお寺に向かう。とわの別れとなるシーン。見送る主人公を、「ふく」と「おふく様」とが言い交わすまま、駕籠から見つめる。その時の様子を握りしめる指が目につく。

人生を長く過ごして来て、近しい人の死とか病とか別れとか、迷惑かけたりけられたりとか、片思いしたり振られたりとか、私なりに経験した。そういうことやらだろ、ちよっとしたセリフや場面に心揺さぶられることがあるのです。

小林稔侍が主人公の連続テレビドラマで有能な相棒役の女優が面白くて、名前を覚えようとした。麻生祐未。

演技はうまいとは思えなかったが、あわてたり興奮したりすると、どもり、持っていた書類をぶんどくという、女優にも使ったのかどうか知らないが二枚目半役がぴったりにあって愉快だった。しかし名前も顔もすぐ忘れて覚えられない。

名取裕子と「特命刑事カクホの女」で共演するというのが見たが、やはり覚えられない。印象に残らない。名取裕子は画面のはじに居てもすぐわかる。麻生祐未はわからぬ。もともと顔や名前を覚えるのが苦手なのに加えて、緑内障が記憶機能にも及んで、顔認識の欠けた所があつて、そこにはまり込む顔なのだろうか。当たり役のどもる役で出ていても、服装や演技を変えられるとうわかない。



映画「隠し剣鬼の爪」のラスト。藩を離れて江戸に向かう主人公のヒロイン「おふく」を「さき」松たか子。2007年テレビ放映画面から



映画「蟬しぐれ」のラスト近く。「おふく様」木村佳乃。初見では指だけが目にやきついたが、録画で見直すと自もしうかり写し込まれていた。2008年テレビ放映画面から



テレビドラマ「隠し剣鬼の爪」の「おふくさん」麻生祐未。2019年録画画面から